

令和5年度学生による授業評価にもとづく学長表彰

学生たちをとことんサポートする気持ちを大事にしています

薬学科 八重 徹司

授業評価高得点賞をいただき、非常に光栄に思っております。熱心に受講した学生のみなさん、そして、ご支援をくださった同僚や関係者の皆様に、改めて感謝の意を表します。講義における取り組みを報告させていただきます。

講義：臨床薬学入門（2年次生）

○講義の基本スタイル

ドラえもん方式の共育コーチングです。様々な道具を使い、とことん「のび太くん」と向き合って、最後は「のび太くんの力」で問題解決できるよう、ドラえもんのようにサポートしていくことを心がけています。講義で活用している道具は、LearningBOX、YouTube、iPad、Apple Pencil です。

○講義で意識していること

- ・「伝える講義」ではなく「伝わる講義」
- ・「プレゼンテーション」でなく、学生に「プレゼント」する気持ち
- ・「教育」ではなく「共育」（ともに育つ）
- ・「音楽や体育の授業のような講義」（学生が主体の講義）

今後は、学生たちの学びを支援するAIの導入を検討しています。私もワクワクしています。

講義「生活技術学」における実践的学びの促進

リハビリテーション学科 齋藤 恒一・伊藤 和寛

本講義「生活技術学」は、患者さんの実生活を自分ごととして考える力を養うことを目指しています。2年次後期に30時間、2単位で開講される本講義は、「愉しむ、楽しむ」をテーマとし、患者さんが日常生活で直面する困難を理解し、支援する方法を学びます。この講義は、神経系理学療法学や運動器系理学療法学および発達障害系理学療法学など、多岐にわたる疾患別分野をカバーします。グループワークを通じて、学生が自主的に考える楽しみを得られるように、学生同士の協力を促します。担当教員は、学生が迷子にならないように短期・長期ゴールを設定し、講義中の質問に真摯に対応します。臨床の現場を意識させるための実践的な内容も取り入れ、学生が将来の職業に対する具体的なイメージを持てるよう配慮しています。講義後にはリフレクションシートを活用し、学生の疑問に即座に対応し、学びを深める体制を整えています。

講義における取り組み — ソーシャルワークの理論と方法 —

医療福祉学科 澤田 如

ソーシャルワークの理論と方法は社会福祉士国家試験の出題科目の1つであることから、早い段階から学生に国家試験を意識してもらえるよう工夫しています。例えば、講義内容に関連した国家試験の過去問を次回講義までの課題として提示し、次回講義開始時に「前回の振り返り」として学生に解答してもらい、その後解説を行う形式で講義をしています。課題提示時には正解数をあえて伏せ、解答時には単に正解番号を解答してもらうのではなく、5つの選択肢各々に対し正解・不正解とした理由を説明してもらう。それにより学生が全ての選択肢に目を通し、各々に対して「なぜ」正解・不正解なのかを考えてもらえるようにしています。学生からは「早い段階から国試に接することができ、講義で学んだことがどのような形で国試問題として出題されるのか分かってよい」等の声をいただいています。今後も未来の医療福祉を担う学生の学びの支えとなれるよう精進してまいります。

英語コミュニケーションBの講義実践について

薬学科 服部 しのぶ

グローバル時代と言われる今日、多文化・多言語化が進んでいる。英語が通じない外国人も増えているが、グローバルランゲージと言われる英語を身に着けて、将来医療職に就き、外国人对応を迫られた時に、何とか意思疎通を図れる力を養う。そして、異文化を理解し外国人对応ができる力も身に着ける。これらを目標に授業をしている。

医療現場で起こりうる状況を想定した会話を題材とすることで、その場に応じた実用的な英語表現を学べ、かつ、チーム医療の一員となる学生には、他の医療職の仕事内容も理解できる。どの表現も単語を替えれば日常生活でも使える基本的な表現なので、身近な所で使えるように意識させている。

英語が苦手な学生も多いので、負担を軽くするために、ペアやグループでの活動を多く取り入れ、音読や役割練習での発話を促している。時には、教員の異文化体験談や学習方法も紹介して、学生に興味をもってもらおうよう工夫している。